

次世代に有機農法を承継 農業こそ持続可能な社会のモデル

有限会社古代米浦部農園 代表取締役社長 浦部眞弓

南甲会員で先代社長の浦部修氏が
2017年5月に亡くなった。
幾多の困難を経て、目指す農業の実現へと
近づきつつある時だった。
残された浦部眞弓氏にその重責がのしかかった。
苦悩の末、たどり着いた結論は……。



浦部 眞弓 代表取締役社長
(昭和49年文学部卒)

「閑散期に薪割りフェスティバルや綿の収穫体験などを開催する観光農園にしていきたい。今、そのための宿泊施設をつくっている最中です」



ありし日の浦部修氏と

妻のために有機米を栽培

「ご夫婦ともに都庁に勤務していたとうかがっています。どうしても農業を始められたのですか。」

都庁勤務といっても、実際の勤務先は江東区役所でした。ところが、私が33歳の時に難病のベーチット病を発症。皮膚やのどなどに炎症を起こし、繰り返すのです。そのうち化学物質過敏症のようになって、何も食べられなくなりました。唯一食べられたのが、西葛西駅前にあった自然食品店のもの。でも、なかには有機と表示されているが炎症を起こすことがありました。完全な有機栽培じゃなかったんですね。

体が正直に反応してしまふ。白米は、有機でもダメで、玄

米を食べ続けると炎症が治まるけれど胃腸を荒らしてしまふ。白米に戻すと炎症をぶり返す。当時、ステロイド治療をしていたのですが、長く使用すると、腎臓や肝臓を悪くすると言われて止め、痛みに耐えていたんですね。ところが、目に炎症が起きてしまい、とうとう40歳で退職。農家だった夫の実家、群馬県藤岡市に転居してきたのです。自分が食べる有機米をつくっていましたが、どうしても乾燥調製機、粃すり調整機、無農薬だから保冷庫も必要でした。財形や個人年金を崩して、貯金も叩いてそれらを揃えたのです。

先代社長は、まだ都庁に勤務していたのですか。

兼業農家として、片道2時間半かけて東京まで通っていました。子どもたちの教育費もかかりますし、高齢だった両親は国民年金しかない。

それで、わずかでもお金にしたいと、自分の食べる分を除いて残りを売り出したんです。そして、たまたま売れて、つくれば売れるので農地を借りて徐々に拡大、知らぬ間に30ha(30万㎡)になっていました。もう、夫は役所に勤



①社員と知人の技術支援者 ②8月には雀よけの防鳥ネット張り ③コンバインで稲刈り ④古代米。白米または玄米1合に大さじ1杯入れて炊くだけ。お米の美味しさを引き立てプチプチとした食感も楽しい。⑤玄米(左)と13種類の穀物ブレンド(右)は古代米と同様の炊き方



めていられません。2004年に
退職し、専業農家になりました。
同時に法人化して、翌年から次世

代に有機農法を承継するために研
修生を受け入れ始めました。
——古代米は、いつから栽培して
いますか。

27年前からです。娘たちの用事
で湯島天神に行った時、露店で赤
や黒の米を売っていた。稲穂1本
2000円で3万円ほど買って持
ち帰った。すると夫は「米に3万
円もかけるなんて気が知れない」
と。でも、白米と混ぜて食べてみ
ると炎症は起きない。追加注文す
ると「米はないが、種籾だったらあ
る」とのこと。5万円分を購入。
届いた種籾はとうとう、塩水に浸
すと全部浮いてしまう。それでも
種らしきものがあるので蒔いてみた
ら、しつかり芽が出てきたんですね。
その後は、試行錯誤しながら、
この土地に合った有機農法を築き
つつ、古代米をつくってきました。
私のベーチット病もいつの間
にか治っていました。古代米の消
炎作用や抗アレルギー作用の効果
でしょう。

襲いかかった最大の試練

——2011年に東日本大震災、
原発事故が起きました。

法人化して7年目。技術が確

立し、お得意さまも増えて、研修
生も順調に育って、これからとい
う時でした。群馬県は、汚染され
た17都道府県に指定され、収穫し
た米の売り先を失ってしまいました。
た。研修生は農業をやる自信をな
くして辞めていく。「面積を小さ
くしましょう」と私が言うと、夫
は「僕たちは無借金で経営してき
ているから簡単に畳める。だけど、
僕らのところで育った独立間もな
い若者は、借金を抱えている。販
売力も弱い。過去のデータもない
から東電の補償も受けられないと
思う。それを見捨てるのか」と私
は怒られた。まあ、立派な旦那さ
んを持つとしょうがないですね
(笑)。

——在庫となったお米はどうされ
ましたか。

産業廃棄物として300万円
かけて処分しました。その後、
全品検査で残留放射能が1ベク
トル未満という結果が出て、も
お客さまの多くは戻ってきました
んです。

——それほどの打撃を受けても再
起を決意されたのですね。
そうしたら、地方紙で発行部

数40万部を超す上毛新聞が「今、
浦部農園は」という記事を8回に
わたって連載してくれたのです。
それも一面トップ記事です。する
と、政策金融公庫や群馬銀行が
「無利子無利息で貸し出すので、
経営を立て直してください」と支
援を申し出てきた。

私は反対でしたが、夫はどうし
ても立て直したいと聞きません。
結局、「借りて様子をみよう」と
いう妥協案を見出したのです。で
も、あれば使うでしょ。機械を揃
えたり、全国規模の商談会へ出店
したり、規模を拡大していまし
た。

そうした折、抹茶カフェ「ナナ
ズグリーンティ」を全国展開して
いる(株)七葉とのマッチングの話が
きました。ランチのお米を有機米
に替えるという大英断を社長がし
てくださったのです。ところが、
ロット数が大きく、浦部農園の規
模では受けられません。そこで、
集荷事業に乗り出し、精米工場や
集荷のための保冷庫を建てて有機
農業者のネットワークを構築させ
たのです。ただし、扱うのは放射
能検査で1ベクレル未満の有機米
だけです。

